2023年度アカデミー推進事業
グループセッション内容

Dグループ：チーム名

【③分析：地域社会のニーズを分析】

1-1　地域にはどんな人がいますか？	♦宮崎県の世帯数は473,252世帯（宮崎市：187,809世帯）【R5.6.1現在】 ♦宮崎県における母子世帯は 105,686世帯（宮崎市：5,514世帯）【H29.12.1現在】 ♦宮崎県における父子世帯が 1,471 世帯（宮崎市：402世帯）【H29.12.1現在】 ♦宮崎県の男女の人口比（R4.10.1現在） 総数　1,051,518人　男性：496,759人(47.2%)　女性：554,759人(52.7%) ♦宮崎市の男女の人口比（R5.7.1現在） 総数　397,554人　男性：187,663人(47.2%)　女性：209,891人(52.7%)
1-2　地域にはどんな問題がありますか？	宮崎県でも宮崎市でも共に、男女人口比率では男性が47.2%、女性が52.7%であり、女性の人口が多いのだが、以下の通り、女性の健康については十分なケアがなされているとは言えない。 ・女性が生理用品を十分に買えないことにより、生理用品の長時間使用や、トイレットペーパーを代用することで膀胱炎やかぶれなどの健康被害、さらには外出ができなくなり、学校を欠席するなど学業にも影響を与える事態が起きている。 ・女性が一生涯のうち、生理が起きている期間は、 1回約5日間×年平均13回×39年間（12歳～50歳）＝6年9ヶ月　と考えられており、それに伴い負担する金額は約45万円、消費税10%を加味すると約50万円にもなると言われている。
1-3　誰が最も問題に直面してますか？	女性、ひとり親世帯の娘
1-4　その問題の真の原因は何ですか？	・コロナ禍の失業による経済格差 ・家庭内暴力 ・家庭内のモラルハラスメント ・ネグレクト ・生理への理解不足 ・生理のタブー視

【②立案：持続可能な解決策の開発）　※『原因』を取り除くには

2-1　誰がどう変わればよいですか？	声をあげにくく、可視化できない状況を変えるために、多くの人たちが「生理」を理解することが必要。そのために学校などの教育機関や保護者がジェンダー教育、生理教育、人権教育といった性教育の早期取り組みの必要性を理解できるとよい。同時に、行政が生理用品への税負担を軽減するメリットを理解できるとよい。
2-2　どんな条件が必要ですか？	・学生たちへ生理用品を無料提供できる仕組みづくり ・生徒だけでなく、学校や保護者が生理への理解を深めることができる機会の提供
2-3　誰が利益を得ますか？	健康や学業への影響を減らすことで、男女が平等に授業を受ける環境が整えられるため、当事者本人だけでなく、家族や学校の利益にもなる。また、月経に伴う労働損失は年間で1兆8,700万円に上るという調査結果もあり、このことから将来的には社会全体の利益にも繋がる。

【課題となるテーマは？Next５は】

ミュゼ学習会　労働局等　https://primes.jp/main/html/rd/p/000000349.000008905.html
健康経営における女性の https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/jose

①と②を元にあなたのグループのテーマは？	生理の貧困問題に対する理解推進
めざすNext5に当てはまる内容は？	地域・社会／相対的貧困の改善、多様性を尊重した教育の推進 人材・社会/健康意識の向上　　組織・社会/ジェンダー平等の実現

中間報告会	発表は8分32秒でした　発表者　河野　小田　伊比井
野村常任	時間内に要点をまとめる、女性のケアがなされていない等生理用品以外で何か案はありましたか
河野	特にほかのものを考えたわけでは無し
野村常任	女性の健康をケアしたい理由や根拠が弱い
遠山	青森ではやっていて、宮崎ではできない話、青森ではなんでできた？
小田	青森は取り組みが積極的(資料を呼んで)調査する価値あり
川越理事長	時間通りに話す事。宮崎は子宮頸がんの受診率が低い、メタボも課題。 例えば、貧困という言葉がキーワードになってるが ひとり親世帯の娘様達の課題を深堀して、課題に直面した時に「なんで」が出てくるのでいい議案になると思う
植松直前理事長	議案にするのであれば、担当が特異をしっかり振得してあげたほうが良い。
浅野前理事長	財源確保は必ずぶつかる課題だと思うので、今後の展望としてCSRやCSVといった企業を巻き込んだ将来像まで描けるともっとすごい内容になるなと思いました。

NEXT5	誰も取り残されない地域の実現	労働生産性を向上させる地域の実現	持続可能で安全な地域の実現
	社会	経済	環境
地域	地産地消の推奨	付加価値創造の推進	再生エネルギーの利用促進
	相対的貧困の改善	地域の魅力の発掘と発信	資源のサステナブルな生産と消費
	多様性を尊重した教育の推進	イノベーションの促進	エコツーリズムの推進
	伝統の継承（宮崎の文化）	ＤＸの推進	国土強靭化計画の推進
人財	健康意識の向上	ビジネスマッチング	持続可能な消費行動の啓発
	ニューノーマルへの適応	ＩＴ人財の育成	環境教育による環境保全促進
組織	ジェンダー平等の実現	会議の効率化	防災ネットワークの強化
	ＪＣブランドの確立と認知度向上	企業・学校・団体との連携	環境経営の確立

事業計画

実施に至る背景 ※根拠をしっかり記載する。	団体「＃みんなの生理」が実施した高校生以上の生徒・学生を対象としたアンケート（回答数671件）によると、過去1年間に経済的な理由で生理用品を「買うのに苦労したことがある」と答えた人は20%。 そのうち、それが原因で学校を休むなど「生活に支障が出た」という人が半分の50%いた。 「買えなかったことがある」と答えた人も6%いた。 しかし、生理用品を買った学生の中でも、「生理用品を交換する頻度を減らしたことがある」が37%。 「トイレットペーパーなどで代用したことがある」も27%に上り、生活費削減のために生理用品を削っている学生がいることが分かる。ただ、生理用品の交換頻度が減ると、トキシックショック症候群（TSS）や子宮内膜症、不妊症などの重大な健康障害を思ったり、TSSでは再足の切除に繋がった例もあり、健康と学業の両方に影響を及ぼしていることが分かる。 アメリカ　カリフォルニア州ではすべての公立学校で生理用品を生徒へ無料配布することが決定し、2022年度から学校のトイレで生理用品の無料提供を始めたところ、出席数が2.4%増加したという結果がでている。 そこでD班では、コロナ禍もあけ、求人やバイト募集が増えつつも、自分でお金を稼ぐことが難しい、小・中・高校生に焦点をあて、生理の貧困を解決する効果的な手段として、学校に生理用品を設置することを考えた。 宮崎市の教育委員会では、既に生理用品を全小中学校に設置することが決定しているが、ひまわりWOMANメンターの原田いくみ氏の調査によると、設置については学校の任意判断になっており、設置している学校は約50%にとどまっているという。（延岡市も同様の状況） 設置していない学校側の理由として、「困っている子を把握したい」、 「トイレに流されるなどのいたずらをされたらどうするのか」「PTA会員の男子親からの反対がある」、 「屋外トイレに設置したら不衛生」などが挙げられていることが分かった。 これにより、学校や保護者向けの生理への理解を深める機会も必要だと考える。
目的	・自分で生理用品を買うことが困難な女性（小・中・高校生）に生理用品を届ける等、生理の貧困を改善する ・生理への理解を広げ、タブー視を無くし、困っている人が声をあげやすい社会づくりを目指す
誰と一緒にできるか	・宮崎市男女共同参画センター　・ハウリング代表　原田いくみ氏 ・県立看護大学　・宮崎市教育委員会　学校教育課、保健給食課
実施できる時期	・学校の夏休み時期（計画①） ・通年（計画②・③・④）
どんなスケジュール間で準備が必要か	2月：役割決め、各団体への協力依頼 3/1～3/8「女性の健康週間」：②・③の実施 5月初旬～：①の準備を開始。未設置の学校へ意見交換会の開催要請。④の実施 8月：①の実施　9～10月：事業引継ぎ
実施できる会場は	・宮崎市男女共同参画センターパレット ・市内の生理用品未設置の学校
事業計画内容 目的を達成させるための手法 ※出来るだけ詳細を記載する	①まだ生理用品を設置していない学校への配置要請 ・学校や保護者の代表の方を交えた意見交換会を開催する。 ⇒・生理の貧困への活動をしている団体の中から講師の方をお呼びし、生理・ジェンダー・人権教育の勉強会を開催し、生理用品設置の必要性を知る機会を提供。原田いくみ氏による講座議事録 ・生理用品学校設置の要望書を提出 ・併せて、学校や保護者、生徒の不安を払拭するため、人目を気にせず受け取れる環境の整備を提案する。 例）・個室内を含むトイレ内への設置 ・意思表示のカードをトイレ等に設置し、それを役所の窓口や保健室で提示することで受け取れる仕組み ・GIGAスクール構想に基づき導入した1人1台の端末を活用し、児童生徒が周りの目を気にすることなく、端末を通して相談を希望する教師へ生理用品の提供を求めることができる仕組み　など ・設置後も、県外を含めた各学校の取組みやその効果を紹介するなどの情報を発信し、定着までの継続的な取り組みやサポートができるよう、団体の方にも協力を依頼し、活動を続ける。 ②生理に関する情報の収集と発信 ♦「洗える布ナプキン」の作り方普及講座の開催 ・県立看護大学の教授や保健室の職員方から協力をいただき、講座を開催。洗える布ナプキンを普及させ、経済的に購入が難しい方・使用頻度を下げたいる方たちが利用できる環境を整える。 ♦生理用品の種類と使い方の情報発信 ・紙や布ナプキンだけでなく、月経カップ、吸水ショーツなどの様々な生理用品の種類があるが、自分に合った物を選択できるように、それらの正しい使い方や正しく使わなかった場合の健康リスクを学ぶ機会を提供する。 その情報は、上記講座内容に組み込むことや、LINE、Facebook、Instagram等のSNS、団体、男女共同参画センターと協力し、ホームページや広報誌などを利用して発信していく。 ③生理用品の寄付募集 ・広報誌やホームページを利用した寄付募集の周知 ・ヒグループの女性部会のイベント時に寄付募集 ・集まった生理用品については、宮崎市男女共同参画センターに寄贈し希望者へ配布 ④宮崎県や宮崎市への要望書提出 ・宮崎県や宮崎市への生理用品の免税（もしくは軽減税率の適用）要望書を提出。 ・継続的な予算確保のお願い

「生理の貧困」が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査　厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/content/000919869.pdf

#みんなの生理
https://minnanoseiri.wixsite.com/website

調査結果参考記事
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210304/k10012896501000.html

宮崎日日新聞
2022.9.16記事引用
https://news.goo.ne.jp/article/miyanichi/region/miyanichi-2022091503685.html

朝日新聞デジタル　2021.9.9記事引用　県立高校への生理用品無償配布
https://www.asahi.com/articles/ASP9677GPP97TNAB00H.html

医大

生理用品学校設置への要望書
https://9b45e5ab-e2a6-4c6a-b3e8-8bbd699349e7.filesusr.com/ugd/c2dcfa_2d22b4e5cdc841e0ad977a92577f0d9.pdf
県立看護大学（布ナプキンの作り方講座）
https://www.the-miyanichi.co.jp/horou/_63532.html
布ナプキン商品（楽天）
https://search.rakuten.co.jp/search/mall/%E5%B8%83%E3%83%8A%E3%83%97%E3%82%AD%E3%83%B3/
生理用品一覧
https://peersupport-tokushima.site/wp/post-1949/
生理用品募集
https://pal-let.jp/news/%E5%BF%85%E8%A6%81%E3%81%A8%E3%81%95%E3%82%8C%E3%82%8B%E6%96%B9%E3%81%AB%E7%94%9F%E7%90%86%E7%9
宮崎市への請願、陳情、要望
https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/faq/doc/1855.html
宮崎市長ホットライン
https://www.city.miyazaki.miyazaki.jp/city/public_relations/hearing/316864.html
宮崎県への提言
https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kense/koho/kenminnokoe/koe_page/index.html

【コスモス調べ】

ナプキン	枚数	価格（税込）	1枚あたり	1回の生理での使用数（例）	
特に多い昼（ソフィ　はだおもい　羽付）	20枚	388円	19.4円	18枚	349.2円
夜（ソフィ　超熟睡ガード360）	12枚	388円	32.3円	4枚	129.2円
軽い日（ソフィ　はだおもい　極うすスリム 34枚	388円	11.4円	5枚	57円	
生理痛　薬（リングルアイビー）	18カプセル　1,442円	80.1円	6錠	480.6円	
「生理のコスト」日経ビジネス　2021.11.25				合計	1,016円

https://business.nikkei.com/atcl/gnus/00006/111700020/#:~:text=%E3%81%82%E3%81%8F%E3%81%BE%E3%81%A7%E6%A6%82%E7%AE%97%E3%81%AB%E3%8

【その他使えそうな資料】
「生理の貧困」が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査　厚生労働省
https://www.mhlw.go.jp/content/000919869.pdf
ミュゼ　生理インタビュー
https://www.nhk.or.jp/minplus/0029/topic029.html
労働力人口統計（2022年）
https://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index1.pdf
「生理の貧困」に係る地方公共団体の取組
https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/kenko/periodpoverty/pdf/3-2.pdf